

映画館

2023.2.27

ここ数年は、コロナ禍の影響もあってか、映画館で映画を見る機会が増えた。中合デパートがその長い歴史に幕を閉じて以来、福島の街はどうも元気がない。ちょうど駅前再開発が始める時期ということもあり、一層さびしさに拍車がかかる。

しかし、映画に関しては話は別である。福島には、映画館が2つもある。長きにわたり2つとも併存している。今は便利になり、スマホで簡単にチケットを購入できる。座席の予約もできる。あとは映画館に行き、QRコードを出せば、チケットが手に入る。

いつも、開場時間に遅れないようにと早めに行ってしまう。その結果、待ち時間ができる。早く時間にならないかなと思ってしまう。座席は決まっているのだから焦る必要はないのだが、早く入りたいと思うから不思議である。

私はさほど好んではないが、映画館というとポップコーンである。手は汚れるし、食べながら見るような映画は選んではない。ところが、家族で行くと、お決まりのようにポップコーンを買っている。仕方なく口に入れる。意外とうまい。

座席の番号を確かめて座る。スクリーンの見え具合を確認する。いい席だと我ながら満足する。予約した我が腕が誇らしくなる。予告編が次々と流れる。いつものことだが、あのワクワク感がたまらない。これは、映画館でないと味わえない。

予告編にも飽きてきた頃に、ようやく注意事項の映像が流れる。そして、昔から変わらない古めかしい各映画会社の映像が流れて、ようやく始める。ここから集中である。字幕スーパーの洋画は大変である。素早く字幕の内容を理解し、映像もくまなく見なければならぬ。邦画であれば、少しは余裕が生まれる。

映画館の魅力は、開場時間までの待ち時間、予告編によるワクワク感、そして何と言っても大きなスクリーンである。あの大画面の迫力は、家庭では味わえない。お腹に響くような大音響もいい。また、何物にも代えがたいのは、会場を後にするときの、あの高揚感、満足感である。少なくとも、それは、建物を出るまでは持続される。きっと、映画館の存在意義は、このへんにあるのではなからうか。

それにしても、次から次へと映画というものをつくられるものである。時代は変わっても、魅力的な娯楽の一つなのであろう。年々歳を重ねてきた結果、映画料金が割引されるようになった。やはり、気分的に違う。得をしたように感じる。

我が街、福島市は、これから街並みが変わっていくかもしれない。それでも、2つの映画館にはいつまでも元気でいてほしい。そのために、微力ながら我が家も通い続けたいと思う。